

金沢大学創基150年と 附属図書館の未来

金沢大学附属図書館長
金沢大学創基150年記念事業
準備委員会委員長
人文学類長

柴田正良(哲学)

Mar.7, 2010
於：金沢21世紀美術館

(覆された宝石)のような朝

Ambarvalia(1933)「天気」

西脇順三郎

話の展開が少しシュールかも・・・

反求舎（加賀藩種痘所） 北陸帝国大学
新制金沢大学 附属図書館 ラーニン
グ・コモンズ カフェ 共同リポジトリ

加賀の地と歴史が支える学術と文化の形

地域医療（加賀藩種痘所） から始まった

- 1862年（文久2年）、加賀藩は金沢彦三八番丁「反求舎」に種痘所を設立した。
→ これが金沢大学の源流・・・2012年に創基150年目を迎える。
- 中心となったのは、蘭方医：黒川良安（まさやす）。良安は1828年、12才の時、長崎出島に留学し7年にわたり医学とオランダ語を学んだ。
- 金沢に居を移したのは30歳の時である。

黒川良安の胸像（医学部玄関に展示）

黒川自然翁



痘瘡の恐怖と医師たちの願い

- 「痘瘡は美目定め、麻疹は命定め」と言われ、わが国では奈良時代の735（天平7）年に痘瘡が大流行し、以後明治に至るまで百回に及ぶ大小の流行があった。
- たとえ九死に一生を得たとしても、死ぬまで「あばた」を苦にして生きてゆかねばならず、痘瘡は人々に非常に恐れられた。江戸時代、かかれば隔離され見捨てられるしかなかった。江戸時代においては、犠牲者の数は計り知れず、心ある医師達の種痘への関心は強かった。

養生所から医学館へ

- 第14代前田慶寧 (よしやす) は貧民の病苦を救おうと、1867年、卯辰山に西洋式病院、**養生所**を建設。
- 加賀藩は1870年に養生所を廃止し、大手町、家老津田玄蕃の邸を**医学館**とし、ここにはじめて学校を主とし病院を従とする制度が確立。

壮猶館（広坂に現存）

創立には良安の尽力が大きかった。
教授した学科は、砲術・馬術・喇叭
洋学・医学・洋算・航海・測量学など



解体新書 (医学類記念館保管)



官から北陸帝国大学を構想する

- 金沢(市)に北陸帝国大学を設置することは多年にわたる要望であり、**明治末以来**、幾度か帝国議会に建議案が提出され可決されてはいるが、いずれも実現には至らなかった。
- 1911（明治44）年、第27回帝国議会に「**北陸帝国大学設立に関する建議案**」が戸水寛人らによって提出された。東京，京都，東北，九州に次ぐ北陸帝国大学の設立を望む建議である。

官から北陸帝国大学を構想する

- 金沢(市)に北陸帝国大学を設置することは多年にわたる要望であり、**明治末以来**、幾度か帝国議会に建議案が提出され可決されてはいるが、いずれも実現には至らなかった。
- 1911（明治44）年、第27回帝国議会に「**北陸帝国大学設立に関する建議案**」が戸水寛人らによって提出された。東京，京都，東北，九州に次ぐ北陸帝国大学の設立を望む建議である。

北陸帝国大学建議書



民から北陸総合大学を構想する

- 第二次大戦後には、市民レベルで金沢への総合大学設置運動が展開され、1946年6月に「北陸総合大学設置期成同盟会」を結成した。
- 結成会には、石川県だけでなく、富山県と福井県の知事、富山市、福井市、敦賀市各市長が出席し、同年8月には、第90回臨時帝国議会に「金沢市に北陸帝国大学を設置に関する建議案」が提出された。

新制金沢大学の附属図書館

- 1949年の金沢大学の創設とともに開館。
- 中央図書館制とし、中央館と1分館（医学部）6分室（法文・理学・教育・薬学・工学・高師）を置き、分館分室はそれぞれその所属の部局に、中央館は暫定的に教養部に置くこととして発足した。

城内時代の中央図書館



図書館のその後

(元図書館長：進藤牧郎の述懐) 1

わずかな数の職員の皆さんが、教官や各研究室のそれぞれの必要からでしようが、いわば勝手に集めたものを体系的に整理・保管するばかりでなく、教官や学生にまでサービスするので大変で 手書きでカードを作っては、その本を書棚に運んで整理し、貸出もするのですから。

私もやっとワープロを手にしたころでした。
なんとしても、図書館の近代化と効率化を図らなければ。

進藤牧郎：1981年～1983年館長

図書館のその後

(元図書館長：進藤牧郎の述懐) 2

私とてコンピュータがどんなものかさえ分からないのです。それは今もってですが、どんなにしても、必要なことは分かります。「次の館長はどうしたってコンピュータの分かる方を」と、学長にお願いして退任しました。

ご苦労をおかけしたのは職員の皆さんにです、相済みません。新しい角間の図書館が立派に完成したのを見るたびに思いを新たにします。

新装なった角間中央図書館内 (正面玄関からメインフロアを望む)



附属図書館の現在（危機？）

- 論文作成のための資料が電子ジャーナルとなり、研究者はほとんど図書館という建物に足を運ばなくなった。→
- 館（やかた）としての図書館は必要か？
- 電子ジャーナルの高騰は研究を圧迫している。
- 情報化・グループ学習化により学生の勉学スタイルが大きく変化した。→
- 静謐空間での独学以外のスタイルを可能とする自由な創造的な場が求められている

附属図書館の未来(1)

ラーニング・コモンズ (LC)

- LCは、ネットワーク情報資源をグループ学習にも活用し、レポートや論文作成のためのソフトな支援を準備し、「創造的な学習」を可能とする新しい「学び」の場である。

<知識の伝達>から<知識の創造>へ
自主的学習・・・<自学自習>
アクティブ・ラーニング

附属図書館の未来(2)

ライブラリ・カフェ

- LCの進化形は、長時間の利用を快適にするアメニティ環境として、ライブラリ・カフェやコミュニケーション・プレイスを備えている。



- 中央館に設置されるわれわれのカフェ「**ほんわかふえ。**」は、4月から開店予定。
- サイエンス・カフェや小さな発表会・講演会なども開催。→ **地域みなさんも気軽に利用可能です。**

中央図書館LCの平面図

中央図書館・平面図（2階・3階）

ほんわかふえ。

ブックラウンジには、
ライブラリーカフェも
併設。



①ブックラウンジ

エントランスに、必携PCが使えるオープンなコミュニケーションスペースを整備。また、新聞、CNN等がみられるニュースラウンジとしての機能も整備。



⑤マルチメディア・ラーニングスペース

CD、DVD及び海外衛星放送等、視聴覚資料の利用や語学学習がワンストップで可能な、視聴環境を整備。



②インフォスクエア

留学生の利用も考慮した、図書館サービスや各種デジタル情報へのアクセススポットを整備。

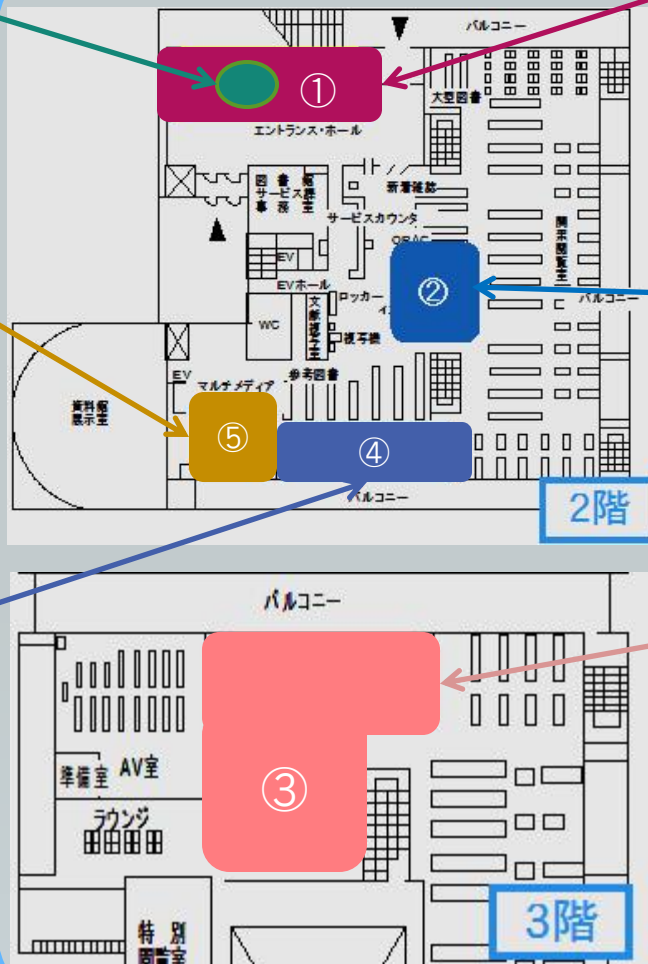
④必携PC利用環境

必携PCを活用して学習できる環境を整備するため、閲覧机に電源コンセントを設置。

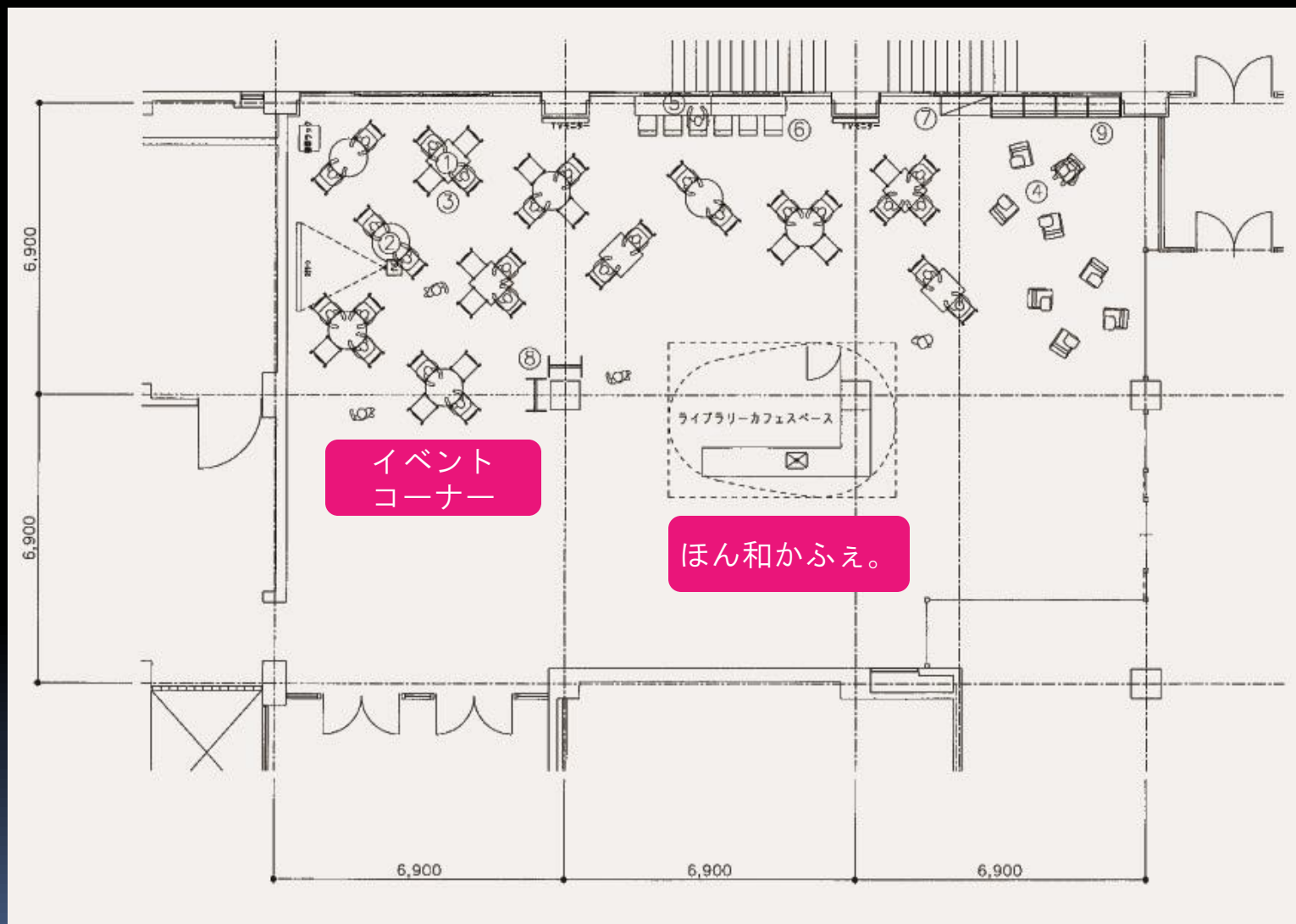


③コラボスタジオ

既存の演習室エリアを改修し、グループ学習からプレゼンテーション演習まで、多様な学習形態を支援する、オープン・スタジオとグループ・スタジオを整備。



中央図書館のLCのカフェ



大阪大学附属図書館ラーニング・コモンズ



附属図書館の未来(3)

機関リポジトリによるオープン・アクセス

- 電子ジャーナル（商業誌）の高騰による研究費への圧迫は、学術情報の〈真の担い手〉の産みの苦しみを象徴している。



- 学術情報の生産者がすなわちその消費者・享受者であることのメリットを生かす。



- 大学・研究機関による知的成果を無償で全世界に素早く発信する・・・知的成果の機関リポジトリへの登録と公開

学術情報の分散構築と共同利用

- 機関リポジトリへの登録と公開は、自機関の論文（文献）だけに限らない。



1. 大学所蔵の写真、動画、音声、収蔵美術品の画像、実験観測データなどの**非文献コンテンツ**も可能。
2. **地域・広域連携**をして、例えば、「佐渡学センター」と協力した新潟大学の地域共同リポジトリによる佐渡の世界遺産登録運動の支援（佐渡金銀山資料の発信）のようなことが今後、可能になる。

暁烏コレクションと四高の物理機器 資料館（ヴァーチャルミュージアム構想）

九谷角花瓶 (13)



顕微偏光装置 (19)



金沢大学附属図書館の基本理念(1)

- 金沢大学附属図書館は、かつて加賀金沢を「天下の書府」と言わしめたこの地の学問に対する深い情熱と、流行におもねることなく伝統美を斬新な意匠で織り上げてきた繊細な感性とを己のものとして受け継ぎ、本学の学術情報の揺るぎなき礎となつて、すべての利用者にきめ細やかな支援を提供することを目指します。

金沢大学附属図書館の基本理念(2)

- すなわち、金沢大学附属図書館の使命は、金沢大学憲章に謳われた「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という本学の理念を支え、「卓越した知の創造」と学生の「自学自習」を促進するために、学術情報資源の収集、整理、保存、発信に力を注ぐとともに、一冊の本、一人の利用者たりともおろそかにしない万全のサービスを具体化することに他なりません。

何人が戸口にて誰かとささやく

「天気」2行目

- たとえ今のかたちの金沢大学が無くなるうとも、附属図書館の2つの機能は、地域と世界の学術情報の中心的機能としてこの地で生き続ける。
- 使命 (Mission)
 1. 創造的な物理空間の提供と共有
 2. 最新の情報空間の維持と展開

それは神の生誕の日

「天気」3行目最終行

その神とは何者？
おしまい

資料：『金沢大学50年史』（通史編・部局編）

『金沢大学 写真で見る50年』